

次期下水道使用料について (R5~R8)

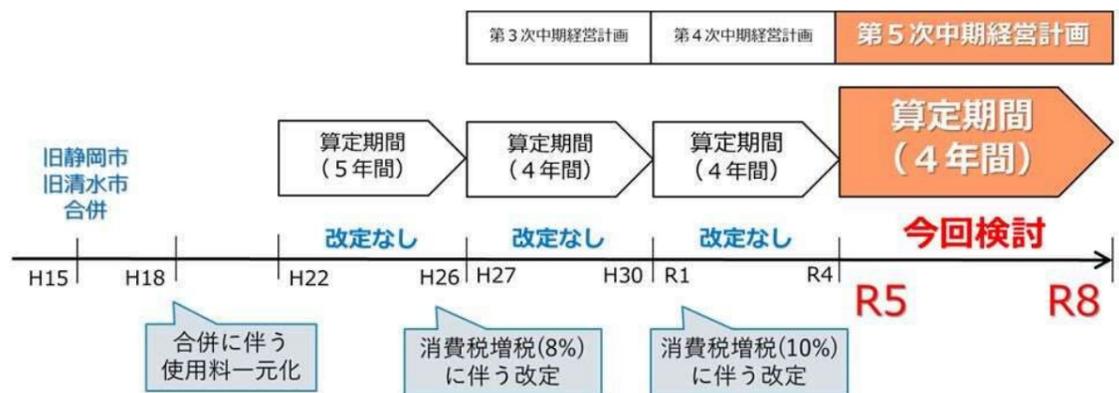
1. 静岡市の下水道使用料

現行の下水道使用料 (税込み・1か月当たり)			
基本使用料		従量使用料 (排出量 1 m ³ につき)	
1,017.50円	0 m ³ を超え	1 0 m ³ までの分	3 8 . 5 0円
	1 0 m ³ を超え	2 0 m ³ までの分	1 3 7 . 5 0円
	2 0 m ³ を超え	3 0 m ³ までの分	1 5 9 . 5 0円
	3 0 m ³ を超え	5 0 m ³ までの分	1 7 6 . 0 0円
	5 0 m ³ を超え	1 0 0 m ³ までの分	1 9 2 . 5 0円
	1 0 0 m ³ を超え	2 0 0 m ³ までの分	2 0 9 . 0 0円
	2 0 0 m ³ を超え	5 0 0 m ³ までの分	2 2 0 . 0 0円
	5 0 0 m ³ を超え	1 , 0 0 0 m ³ までの分	2 3 1 . 0 0円
		1 , 0 0 0 m ³ を超える分	2 4 2 . 0 0円

2. 下水道使用料で賄う経費 (イメージ)

支出	うすい 雨水に係る経費 ※原則 一般会計負担		おすい 汚水に係る経費 ※原則 下水道使用料負担 ※一部 一般会計負担	
	資本費	維持管理費	資本費 (借入利息、減価償却費など)	維持管理費 (人件費、施設補修費、委託料等)
収入 (財源)	一般会計で負担 (一般会計繰入金)		下水道使用料	

3. 下水道使用料の算定期間



4. 下水道使用料の検討項目

- ①収益的収支 (維持管理に要する経費) における利益の見込み (収入 - 支出)
- ②経費回収率の見込み
- ③資本的収支 (建設投資に要する経費) における資金 (補てん財源を含む) 状況の見込み
- ④企業債残高 (負債) の見込み

5. 次期算定期間の収支見込み

(単位: 百万円)

項 目	第4次中期経営計画					第5次中期経営計画				
	R1 決算	R2 決算	R3 決算見込	R4 予算	第4次計	R5 予測	R6 予測	R7 予測	R8 予測	第5次計
下水道使用料	9,616	9,588	9,529	9,536	38,269	9,522	9,509	9,496	9,483	38,011
収入計 (あ)	21,219	21,160	21,026	21,286	84,691	21,524	21,468	21,299	21,317	85,608
物件費	5,316	5,273	5,263	6,073	21,925	6,285	6,254	6,310	6,454	25,303
企業債利息	2,415	2,168	1,950	1,797	8,330	1,511	1,311	1,158	1,027	5,007
支出計 (い)	20,115	19,855	19,600	20,712	80,283	20,490	20,328	20,192	20,236	81,246
経常利益 (あ)-(い)	1,104	1,304	1,426	574	4,409	1,034	1,140	1,108	1,081	4,362
収入計 (う)	13,793	12,787	12,430	11,491	50,500	12,346	11,096	10,635	11,343	45,421
支出計 (え)	22,310	21,264	22,587	21,076	87,237	22,538	20,394	19,848	19,823	82,603
不足額 (う)-(え)	△8,517	△8,477	△10,157	△9,585	△36,736	△10,192	△9,298	△9,212	△8,480	△37,182
補てん財源	18,190	18,203	18,034	16,957	71,384	15,639	14,263	13,901	13,632	57,435
充当後補てん財源残高	9,673	9,726	7,877	7,372	34,648	5,447	4,965	4,689	5,152	20,253
企業債残高	145,545	143,909	141,967	140,031	—	138,808	137,536	136,195	134,899	—

※各金額を百万円未満四捨五入で表記しているため、合計額や差引額が一致しない場合があります。

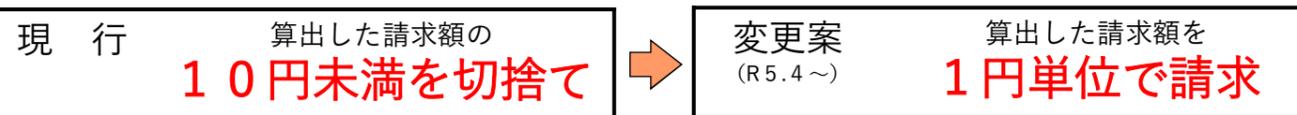
6. 次期下水道使用料の方向性

今後の経営展望

- ①収益的収支 (維持管理に要する経費) は継続して経常利益が見込めます。(詳細資料P.10)
 - ・(収入増↑) 下水道整備に伴う接続戸数の増加による、使用料収入の増加
 - ・(収入減↓) 人口減少による使用料収入の減少
 - ・(支出増↑) 管、施設の老朽化に伴う物件費 (修繕費等) の増加 (4年総額比較で15.4%増)
 - ・(支出減↓) 高金利な借入の償還終了による「企業債利息」の減少
- ②経費回収率は98.6% (令和3年度決算見込)。令和2年実績に対し1.3ポイント改善しており、今後もほぼ100%を維持できる見込みです。※経費回収率 = 下水道使用料収入により汚水に係る経費を賄っているかを判断する指標
- ③資本的収支 (建設投資に要する経費) は、支出に対し収入が不足する分を補てん財源で賄うことにより、事業の継続実施が可能です。(詳細資料P.13)
- ④企業債残高は、年々減少する見込みです。(年平均1.0%程度) (詳細資料P.14)

次期算定期間 (令和5~8年度) においては、下水道事業の健全運営が可能と判断し、**現行の下水道使用料単価及び体系を維持する方向**で検討中です。

7. 次期下水道使用料の請求額の取扱い変更について



※年間約800万円の収入増を見込んでいます。
※政令指定都市20市中18市で実施済みです。
※静岡市の水道事業では、R2年度から実施済みです。